

# おもな学校感染症

第2種	病名	主な症状	潜伏期間	感染経路	出席停止期間
	インフルエンザ	高熱、頭痛、全身倦怠、関節痛、咽頭痛、咳、鼻水など	1～2日	飛沫	発症後5日かつ解熱後3日を経過するまで
	百日咳	特有の激しい咳など	1～2週間	飛沫	特有な咳が消え、伝染の恐れがないと認められるまで
	麻疹(はしか)	発熱後4日目より皮膚に発疹	10～12日	飛沫	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発熱、耳下腺が大きくはれて痛む、食欲不振など	2～3週間	飛沫	耳下腺のはれがひき、医師の判断
	風疹	発熱、発疹、耳の後ろや首のリンパ腺のはれなど	2～3週間	飛沫	発疹が消えるまで
	水痘(水ぼうそう)	微熱、全身に発疹など	2～3週間	飛沫 接触	発疹が全てかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	高熱、咽頭痛、咳、結膜の充血、首のリンパ節の腫脹	5～7日	飛沫 接触	症状が消えた後、2日を経過するまで
	結核	咳	—	飛沫 経口	伝染の恐れがなくなるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	高熱、頭痛、嘔吐、頸部硬直	2～5日	飛沫	伝染の恐れがなくなるまで

第3種	病名	主な症状	潜伏期間	感染経路	出席停止期間
	流行性角結膜炎	結膜の充血、目やに、涙	5～7日	接触	症状が改善し、医師が伝染のおそれがないと認めるまで
	急性出血性結膜炎	きつい充血、目の痛み	1～2日	接触	症状が改善し、医師が伝染のおそれがないと認めるまで
	腸管出血性大腸菌感染症(O-157等)	下痢、嘔吐、腹痛	4～8日	経口	症状が改善し、医師が伝染のおそれがないと認めるまで
	溶連菌感染症	咽頭痛、高熱、扁桃の発赤や腫れ、いちご舌	2～7日	飛沫	症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による
	手足口病	手のひら、足の裏、口、舌に白い水疱の発疹など	3～6日	飛沫	症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による
	伝染性紅斑(リンゴ病)	頬がリンゴのように丸く、赤くなる、発熱	1～2週間	飛沫	症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による
	ヘルパンギーナ	高熱、のどの奥に小さな水疱	2～7日	経口 飛沫	症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による
	RSウイルス感染症	発熱、咳、鼻水、喘鳴、呼吸困難	2～10日	経口 飛沫	症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による
	感染性胃腸炎(流行性嘔吐下痢症)	発熱、下痢、嘔吐、白便(ロタ)	1～2日	経口	症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による
	マイコプラズマ肺炎	発熱、激しい咳、咽頭痛	2～3週間	飛沫	症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による
	伝染性膿痂疹(とびひ)			接触	湿潤部位をガーゼ等で覆っていれば出席停止の必要はないが、医師の判断による
	伝染性軟属腫(水いぼ)			接触	出席停止の必要はないが、医師の判断による
アタマジラミ			飛沫	出席停止の必要はないが、医師の判断による	